

コスタリカ内政・外交 2014年10月～12月

【要旨】

内政

- 11月、国民解放党（PLN）の党大会に、アリアス元大統領、フィゲーレス元大統領が出席。両者の政界復帰の可能性が高まった。
- 11月、ルター派牧師であったメルビン・ヒメネス氏の大統領府長官就任に関し、最高裁憲法法廷が合憲であると最終判断を下した。
- 11月、国家開発計画 2014-2018 が発表された。

外交

- 10月、コスタリカは2014年人権理事会理事国選挙にラ米グループから立候補していたが、必要票129票のところ120票しか獲得できず落選した。
- 11月、コスタリカ政府はエリザベス・オディオ氏を米州機構人権裁判所判事候補として擁立することを発表した。
- 11月中旬から12月にかけて、ソリス大統領はパナマ、エルサルバドル、メキシコを訪問した。メキシコでは第24回イベロアメリカサミットに出席した。

I. 内政

1. 国道32号線（11月5日）

カルロス・セグニーニ公共事業交通大臣が訪中し、中国側関係者と国道32号線拡幅事業に関する借款協定の再交渉を開始。同大臣によると、11月中に中国側からコスタリカ側の要求に対する回答を得た上で12月に政府間交渉を行う予定。明年2月に国会審議にかかけたいとしている。

コスタリカ側の主な要求は以下の通り。

- 借款条件の見直し。
- コスタリカ人、コスタリカ系企業の参加率を60%以上にすること。
- 土地収用の再調査。
- 今後、契約条件に関し問題が起きた場合はワシントン、パリ、ロンドンいずれかの仲裁機関へ付託すること。

2. PLNの党大会実施（11月8日）

長く公の政治活動の場から遠ざかっていた、フィゲーレス元大統領、アリアス元大統領、チンチージャ前大統領らがPLNの党大会にそろって参加。アラヤ前サンホセ市長が大統領選を途中で棄権したことに対する党規違反問題、2016年に行われる地方首長選挙等

に関し、議論が行われた。2016年の地方選挙は2018年の大統領選挙の前哨戦になるとみられ、各政党が極めて重視している。アラヤ前市長は2016年のサンホセ市長選挙への立候補に意欲を表明。

3. メルビン・ヒメネス大統領府長官（11月12日）

ルター派牧師であったメルビン・ヒメネス氏の大統領府長官の就任問題に関し、最高裁憲法法廷で合憲の最終判決が出る。聖職者が公職に就くことを禁じた憲法規定は、歴史的経緯に鑑みて、カトリック聖職者のみに適用されるものであり、ルター派教会の牧師であるヒメネス氏は禁止規定の対象外であると判断された。一方、ヒメネス氏が所属していたルター派教会は、ヒメネス氏が大統領府長官になったことで、自動的に牧師の資格を失ったとの見解を発表。

4. 国家開発計画 2015-2018 (el Plan Nacional de Desarrollo 2015-2018)（11月17日）

ソリス大統領は、今後4年間の政権の開発政策の指針として、「国家開発計画 2015-2018」を発表した。同計画では「経済成長の促進と雇用回復」、「貧困と格差との戦い」、「透明性のある政府」の3点を主要テーマとし、これら主要課題への取組として、16の個別戦略に基づく164の具体的なプログラムを策定した。網羅的になり過ぎ、個別の計画の実現に向けた具体的なプロセスが示されていない等の批判がみられた。

II. 外交

1. ソリス大統領による国連総会出席（9月24日）

ソリス大統領はニューヨークで開催された、第69回国連総会に参加し、演説の中で、世界平和実現のために軍縮に取り組んでいく姿勢を示した。また、23日に開催された、国連気候変動サミット2014にも参加した。

2. ニカラグアとの国境における入管施設の整備計画（10月7日）

2014年8月、ニカラグアにおいて日本からの3千万ドルの借款により建設されたサントフェ橋が開通して以降、新たな国境を開設する重要性が高まったことを受け、ソリス大統領は、ラス・タブリジャスの臨時入国管理施設を2015年4月までに整備することを確認した。

3. 2014年人権理事会理事国選挙（10月21日）

コスタリカは、2014年人権理事会理事国選挙にラ米グループから立候補していたが、必要票129票のところ120票しか獲得できず落選した。コスタリカは2011年から2014年までの任期で同理事会理事国を務めており、再選を狙っていた。

4. エリザベス・オディオ氏の米州機構人権裁判所判事候補への擁立（11月13日）

コスタリカは、米州機構人権裁判所の判事として、エリザベス・オディオ氏を擁立することを発表した。任期は2016年から2021年となり、来年のOAS第45回総会で選挙が行われる。同氏は1998年から2002年に副大統領を務め、法務大臣、環境エネルギー大臣等政府の要職を務めた経験もある。また、ユーゴスラビア特別法廷の判事を務めた。

5. ニカラグア国境問題（11月18日）

コスタリカ政府がニカラグア政府に対し、ニカラグアによる新たな領土侵犯、特にICJの命令に違反する、サン・フアン河の右岸（当館注：コスタリカ領）におけるニカラグア人による伐採、浚渫行為を非難し、これらの挑発行為に対し正式な警告を発した。

6. ソリス大統領のパナマ訪問（11月19日）

ソリス大統領はゴンサレス外相、ガンボア国家警察公安大臣、モラ貿易大臣を伴い、パナマを公式訪問した。ソリス大統領は、バレーラ・パナマ大統領と首脳会談を行い、犯罪組織との戦いにおける協力、両国間の観光業及び貿易の促進等について意見交換を行った。首脳会談後、両大統領は、二国間関係の一層の発展と、政治、貿易、安全保障協力など各分野に関し、高いレベルによる相互理解をさらに進める旨を強調した共同宣言を発表した。

7. ソリス大統領のエルサルバドル公式訪問（11月26日）

ソリス大統領はゴンサレス外相を伴い、エルサルバドルを公式訪問した。ソリス大統領は、サンチェス・セレン大統領と首脳会談を行い、両国の社会と経済の発展のための二国間関係強化、及びSICAの改革、地域統合について協議した。首脳会談後、両大統領は共同宣言に署名した。

8. ソリス大統領のメキシコ訪問（12月6日から10日）

ソリス大統領は12月6日から10日、ゴンサレス外相を伴ってメキシコを訪問し、OECD加盟に向けたアンヘル・グリアOECD事務総長との協議、投資誘致のためのメキシコ企業との会合を行った。また、ソリス大統領は8日及び9日、第24回イベロアメリカサミットに出席し、教育・文化セッションにおいて、障害者、先住民、女性や移民など従来差別されてきた人々のための新しい教育が必要であると述べた。